

鹿児島流

熱いハートの医師 育てます



出水の鶴（出水市） 写真協力：観光かごしま大キャンペーン推進協議会

私の臨床研修医時代

鹿児島市医師会病院
緩和ケア科部長

ま み つか かつろう
馬見塚 勝郎

出身校 鹿児島大学

私は社会人を経て 30 歳で鹿児島大学に入学しました。脳梗塞後遺症の父を自宅で母と看病しながら卒業して、平成 3 年に大学院（脳神経外科学専攻）に進学しました。また私は M2 の時に学生結婚をして、研修医の時には 2 人の子供がいました。当時は今のような研修医制度はなく、大学院の基礎研究と脳神経外科の臨床研修を同時にしていました。外科系は先輩からメスの持ち方、皮切の仕方、吸引管の持ち方などを一つ一つ習いながら育っていきます。指導医より年上だった私は研修医として扱いにくかったのではないかと申し訳なく思います。教授回診の前日はカルテやレントゲンの準備で同期と徹夜して、担当患者の術後は ICU に泊まり込みで患者の状態観察をしていました。自宅にはあまり帰らない生活でしたので妻には苦勞をかけたと反省しますが、長男も 3 年前に鹿児島大学を卒業して医師になっています。大きく育てて欲しいと願う今日この頃です。



出身地 阿久根市

指導医の思い出



出身地 鹿児島県

ひがしもと いっこう
東元 一晃

出身校 鶴丸高等学校▶鹿児島大学

勤務先▶鹿児島市立病院

呼吸器内科を目指して第3内科の門をたたいた私は当然のことながら1年目はほとんど神経疾患を担当することとなり、オーブンの先生からは神経診察手技や考え方を叩き込まれました。おかげで今でもふらつきやしびれをみるとハンマー片手に所見をとってみようと思えるようになっていきます。さて、呼吸器内科は沖縄中部病院での6ヶ月専攻コースの経験が大きな礎になっています。期間が冬だったせいもありCOPD急性増悪や高齢肺炎が毎日のように入院してきて、我々研修医は患者さんが出した痰を嬉々として自分でひいてグラム染色し起病菌を推定するという作業をやっていました。また、朝夕の回診では指導医から肺炎の治癒過程で、経時的にクラックルの時相が変化するなど、細かい変化を見逃さないよう教えこまれました。神経、呼吸器とも理学所見の大切さを体にしみこませてくれた時期だったと思います。



出身地 山梨県→千葉県→鹿児島県

たけざき ともこ
嶽崎 智子

出身校 鶴丸高校▶鹿児島大学

勤務先▶鹿児島生協病院

「全身を診る医師になりたい」と沖縄県立中部病院のレジデントを受けた。が、その年は補欠合格の繰り上げはなかった。慌てて探した入局先は鹿児島大学小児科だった。

- ・指導医「明日朝6時50分に集合ね。始業前までに病棟診て方針決めて指示まで出そうね」彼はロールモデルになった。
- ・病棟深夜の主任看護師さん「一緒に新生児のオムツ替えて哺乳するわよ」
- ・外来副看護師長さん「点滴ラインとれるかなあなんて気弱な気持ちで処置していたら入る点滴も入らないのよ」
- ・医師会病院内科医師「パラコート中毒が救急搬入されるけど一緒に対応してみないか」
- ・付き添いの母親「主治医の代わりはいるけれど母親の代わりはいないのよ」

医療現場のあちこちに指導者はいて、学ぶチャンスはいくらでもあった。『合宿』のような毎日が楽しくてしかたなかった3年間だった。ポケベル登場の時代。疾患検索は医局の図書と図書館の医学雑誌。患者さんの情報収集はナースステーションのカルテのみ。そんな不便な昔もそう悪いものではなかったなと思う。



出身地 奄美市

せきやま こうすけ
積山 幸祐

出身校 錦江湾高等学校▶鹿児島大学

勤務先▶今給黎総合病院

今と違いほとんどの研修医は大学に即入局する時代でした。私は外科系を考えていましたが決められずに麻酔科に入局し、鹿児島大学病院や関連病院で麻酔や救急、集中治療等を学びました。ある病院では、ICUの患者を主治医として付きっきりで担当しながら、違う患者の麻酔をかけ術後の全身管理もするといった働き方で、夜はICU当直、救急当直、麻酔で1週間の半分は病院に泊まりこみ、休日も全くありませんでした。若い時しかできない非常に濃い貴重な経験でした。

4年目に鹿児島大学耳鼻咽喉科に入局しました。

比較的易しい手術から鼓室形成術や頭頸部癌といった難易度の高い手術まで多種多様な手術があり、奥が深く決して飽きることはないだろうと考えたからでした。

内科的な側面もあわせもち、乳幼児から高齢者まで、診断から治療まで一貫して行える耳鼻科の魅力の後輩たちに伝えていければと思います。



出身地 鹿児島県

かじ たつる
加治 建

出身校 甲南高等学校▶熊本大学

勤務先▶鹿児島大学病院

研修医の皆さん、毎日の研修に励んでいることと思います。今年度、初期臨床研修制度の大きな見直しがあり、シームレスな教育という名の下に到達目標が卒前・卒後で整合性が図られました。また、経験する疾患、病態なども絞られて、評価システムもEPOC2へと刷新されています。指導医としては、研修医の皆さんが学び、実践する医療自体に大きな変化はなく、より充実した現場での経験を進めていきたいと思っておりました。しかし、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、新しい生活様式を求められ、臨床研修の場面でも、慎重な対応を求められる場面も多くなりました。指導医の我々も初めて経験することばかりであり、まして研修医の皆さんも戸惑う場面も多いと思います。しかし、これからは、医療の形やあり方がさらに変化していくことは、想像に難くないと思います。皆さんは、未来の医療がどのように変化していくのかも考え、感じながら、医学の発展を目指して、日々の研鑽に励んでほしいと思います。変化を恐れることなく、楽しみながら適応できる能力をみにつけてほしいと思います。

研修医の声



出身地 鹿児島県

しらい だい
白石 大瑛

出身校 鶴丸高等学校 ▶ 鹿児島大学

研修先 ▶ 鹿児島医療センター

鹿児島医療センターでの研修が始まって早くも8か月が経とうとしております。

初めは何もわからず、これからやっていけるのか不安になる毎日でしたが、指導医の先生や研修2年目の先生、その他スタッフの方々に丁寧に教えていただき、少しずつ自分でできることが出てきました。今もできないことばかりで失敗が多いですが、研修医の間にしかできない失敗や経験がたくさんあると思うので、それを糧に毎日何か少しでも成長できるように、頑張っていきたいと思います。もうすぐ研修2年目が始まり、後輩もできます。1年目の時よりも、言い訳できない場面が増えていきますが、そのプレッシャーも成長するためとポジティブに捉えて、日々精進していきたいと思ひます。



出身地 鹿児島市

こだま こうき
児玉 弘毅

出身校 ラ・サール高等学校 ▶ 熊本大学

研修先 ▶ 今村総合病院

気付けば初期研修も残り3ヶ月程度となってしまいました。県外の大学出身ではありますが良い同期に恵まれ、優しいスタッフの方の助けもありなんとか研修医として過ごせていると思ひます。今村総合病院では、どの科の先生方も優しく熱心に面倒をみてくださります。朝の勉強会や各科のレクチャーは実践的で為になる内容ですし、普段の病棟業務や救急での当直を通して多くの手技を経験できます。また関連病院や施設も多く、本人の意欲や生活に合わせつつ、複数の医療現場を見ることでたくさんの経験を積んでいけると思ひます。とはいっても私自身まだまだ力不足を感じる場面が多々あり、3年目以降の生活に不安を感じています。少しでも不安を払拭できるよう、また自分の目標に少しでも近付けるよう、悔いのないように残りの研修生活に励んでいきたいと思ひます。



出身地 鹿児島市

ことう そういち
古藤 聡一

出身校 池田高等学校 ▶ 自治医科大学

研修先 ▶ 鹿児島県立大島病院

県立大島病院で初期研修をはじめ半年が経ちました。今年はCOVID-19の影響もあり「在宅勤務」という例年とは異なる仕事の始まり方でしたが、どうにか研修医としての生活をスタートできています。実際に働きはじめてみると学生時代に勉強していたことなんてほとんど実用できない状態で、県立大島病院の多くの先生方、他職種の方に指導していただきながら働くことが出来ています。同期にも恵まれ、職場だけでなく私生活でも有意義な時間を過ごせています。奄美大島の自然を満喫できているのもひとえにいい同期に恵まれたおかげです。現在働いている県立大島病院は奄美大島で離島医療を提供する病院であるため都会の病院で研修している方とはまた一味も二味も違った研修を行っています。地域の特性を知って連携を図るところまでを求められるのもいい経験です。これからも鹿児島島の地域医療のために役立てるよう精進していきたいと思ひます。



出身地 鹿児島市

しぶや のぞみ
渋谷 望美

出身校 鶴丸高等学校 ▶ 鹿児島大学

研修先 ▶ 霧島市立医師会医療センター

緊張と不安と期待で胸がいっぱいだった4月から1年が経とうとしています。

今も自分の無力さや勉強不足を日々感じながらも、目の前にあるやるべきことを一生懸命行う日々を送っています。

うまくいなくて悩むこともありますが、指導医や上級医の先生方はもちろん、同期や秘書さん、コメディカルの方など、いろいろな人に助けられ、叱咤され、指導していただいて、一つずつ問題解決をしています。いつも多くの人に支えられていることを実感する日々です。

素直な姿勢で2年間よく考え、よく学び、2年間の研修が終わった時に、自分の成長を実感できるように今後も励んでいきたいと思ひます。

ト

TOPICS

ピ ッ ク ス



県外医学生等出前セミナーについて

当協議会では、県内の研修医や指導医が、県外医学生の住むまちに伺い、県内の最新の研修プログラムについて説明したり、病院見学や、臨床研修のこと、鹿児島での生活についてなど、医学生からの質問についてお答えしたりする「県外医学生等出前セミナー」を開催しています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、訪問することが難しくなっています。そこで、オンラインシステム「zoom」を使い、オンラインでの面談を実施していきます。県外にいながら、研修医や指導医の生の声を直接聞くことができる機会として、お一人でも、ご友人と一緒にでも大歓迎ですので、興味のある方はぜひ当協議会事務局までご連絡ください。

e-mail : iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp
TEL : 099-286-2581



【追加募集!!】 医学生の皆さんへの修学資金をご活用ください!!

鹿児島県では、全国の医学部生を対象に、将来、鹿児島県内の医療機関において特定診療科（産科（産婦人科）、小児科、麻酔科、救急科、脳神経外科、整形外科）の医師として勤務しようとする方に対し、修学資金を貸与します。

鹿児島大学病院又は鹿児島県立病院群での初期臨床研修後、貸与を受けた期間と同期間、県内の指定医療機関の特定診療科で勤務すると、修学資金の返還が免除されるものです。

今年度貸与分の申請について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている医学生の皆さんの状況を考慮し、若干名の追加募集を実施することとしました。

学年問わず貸与が可能ですので、ご希望の方はお早めにお申し込みください!

また、県外医学部のお知り合いで将来、鹿児島での勤務を希望されている医学生がいれば、是非ご周知してください!

医学生の皆さん、この制度を利用して、県内での医療に携わってみませんか?

詳細は県のホームページをご覧ください。

URL <https://www.pref.kagoshima.jp/ae03/kenkofukushi/doctorbank/taisaku/syuugakutaiyo1.html>

皆様のご応募をお待ちしています!!

協議会主催のオンライン合同説明会を2、3月に開催予定!!

協議会主催のオンライン合同説明会を2月と3月に開催予定です。

県内の複数の基幹型臨床研修病院が参加し、病院・研修プログラム内容の説明や研修医・指導医への質疑応答等の実施を予定しております。

「Zoom」を利用しますので、鹿児島県内の方はもちろん、遠方で直接病院を訪問できない方々も、この機会に是非ご参加ください!

詳細については、近日中に協議会公式Webサイト等にてご案内いたします。

公式WebサイトURL ⇒ <https://kagorinsho.jp>



鹿児島県初期臨床研修連絡協議会 (事務局：鹿児島県 暮らし保健福祉部 医師・看護人材課)

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10-1

e-mail iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp

TEL **099-286-2581** FAX **099-286-5928**

<https://kagorinsho.jp/>